

H27大豆栽培農事メモ(第4号)

平成27年10月2日
 白山石川営農推進協議会
 石川県農業共済組合
 松任市農業協同組合

里のほほえみの黄葉は進み、エンレイでは落葉期となる圃場もあり、収穫間近です。適期に適切な収穫作業を行い、良質大豆を収穫しましょう。

1. 収穫適期の判断

収穫時の大豆の水分が20%以上では損傷粒、茎の水分が60%以上では汚損粒が増えるので、大豆の茎・莢・大豆粒の水分を的確に把握し、収穫作業を行なってください。

コンバイン収穫の適期：莢や子実の水分が18~20%
 茎の水分が60%以下

【達観による判断基準】

- 株：葉が完全に落ちて茎と莢だけになっている。
- 莢：莢が黄化してから約2週間経過し、茎を揺さぶるとカラカラと音を立てる。
- 豆：粒が球形になり、硬くなって、爪を立てても爪跡がわずかにつく。
- 茎：完全に茶色く枯れ上がり、手でポキッと折れる。



緑色の茎葉が残る大豆の株は抜く

◎里のほほみ収穫の留意点

- 成熟期は「エンレイ」より13~15日程度遅くなる。
 - 莢が褐色となり子実水分が20%以下となっても、茎に黄色味が残りやすい。
- 収穫時期の判断は、茎の黄色味が退色して茎水分が低下してからとし、コンバイン収穫時も粒の汚損程度や脱穀部のつまりがないことを確認しながら行う。

2. 緑色の茎葉が残る大豆株や雑草の除去

汚損粒発生防止のため、収穫前に緑色の茎葉の残る大豆株やアメリカセンダングサ、タデ等の雑草は除去してください。

3. 収穫作業の注意点

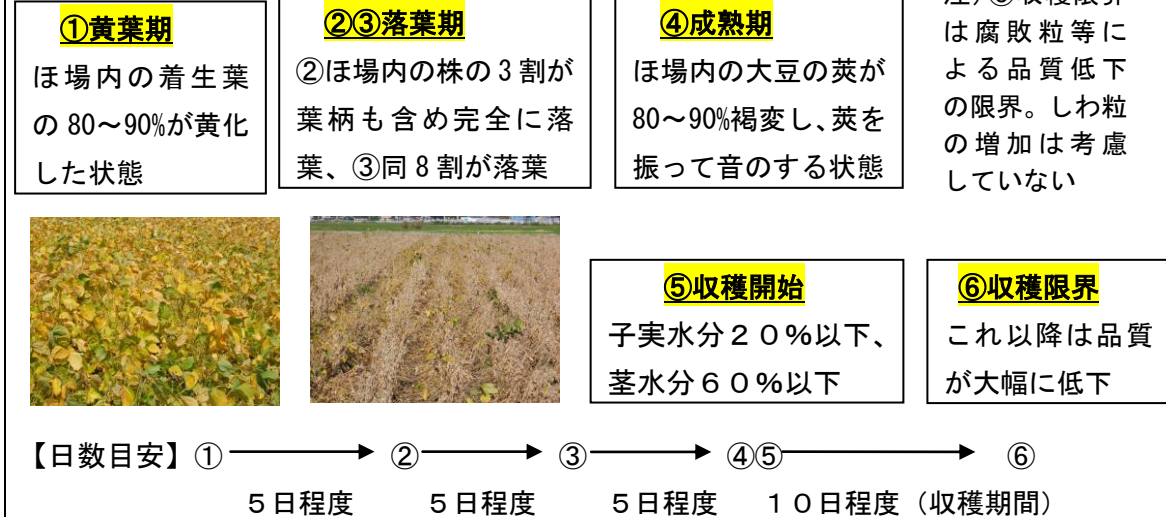
- 大豆刈取り時に土による汚損粒やゴミの混入は、豆腐などの製品に雑菌が繁殖する原因となるため、実需者から最も嫌われるので注意する。
- 土や雑草を機械に入れないように大豆が乾燥した状態で刈る必要があるため、朝露の残る早朝の作業は避け、午前10時以降に収穫する。
- 刈取り部に土が入らないように刈高さ注意し、万一土が入った場合は直ちに停止して、刈取り部等の清掃を行なう。
- 刈遅れは、しわ粒の発生や品質低下の要因となるので、適期に収穫する。

【参考】

◎成熟期の目安

- 成熟期の目安は、黄葉期から概ね15日後である。地力の差や湿害の程度により、圃場間や圃場内の個体間で成熟の早晩の差が大きくなるので、黄葉期や落葉状況を把握して、成熟期を予想し適期収穫に努める。
- 特に黄葉期頃は、圃場間の早晩を把握しやすいので、この時期に圃場をよく観察し、収穫作業計画でほ場の刈取り順を決める参考にする。

☆黄葉期から収穫期までの日数の目安

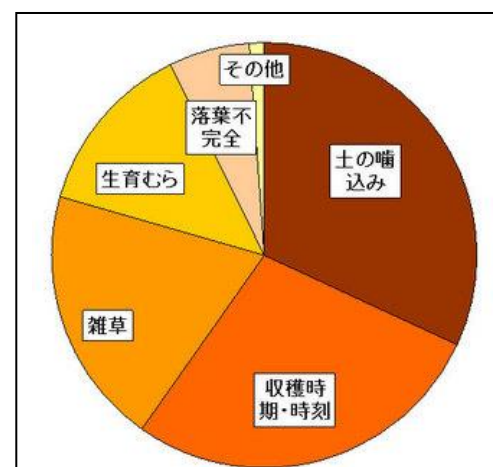


例：落葉が8割となった日が9月29日→収穫は10月4~13日となる。

◎しわ粒の発生軽減

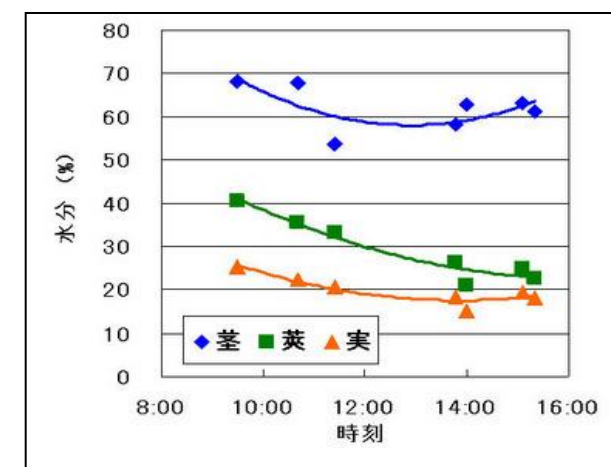
しわ粒には「亀甲じわ」と「ちりめんじわ」の2種類があるが、「亀甲じわ」は成熟期後、収穫が遅くなるほど増加する。亀甲じわ粒の発生を軽減するには、成熟期が早いほ場・団地から適期を逃さず収穫を開始し、作付けほ場全体の収穫期の後ずれを回避することが重要である。

また、ちりめんじわは生育後半の栄養状態や老化が早い場合に発生するので、次年度に向けて土づくりや肥培管理の改善に取り組むことが重要である。



汚粒の発生要因

- 土の噛込み、収穫時刻、雑草が主



大豆水分の日内変化

- 晴天の場合は午前10時頃から午後5時頃までが最適